

# 高等学校芸術の書道と漢字の美について

趙 忠華\*・福田 隆眞

On Calligraphic Education and the Beauty of Chinese Characters in High School Art Education

ZHAO Zhonghua\*, FUKUDA Takamasa

(Received August 5, 2013)

キーワード：高等学校芸術、書道、漢字の美、教材

## はじめに

高等学校における芸術教育は、音楽、美術、工芸、書道からなっている。高等学校での芸術の教育は社会人として必要な教養的素養の教育にある。本稿では、高等学校芸術の一つの分野である書道について、その教育課程及び教材について述べ、芸術の立場から書の美がどのように取り扱われているかを抽出し、あわせて漢字のもつ美しさについて例示する。このことは、書道を通して日本の漢字文化や中国の文化を理解する一つの手立てとなる。

### 1. 書道の学習指導要領の変遷<sup>1)</sup>

ここでは、書道の学習指導要領の変遷について見る。戦後の教育課程の変遷は、社会の動向によって約10年間隔で改訂されている。書道においては学習内容の大きな変化は少ないが、書道の位置づけや教育方法に変化が見られる。以下に、昭和26年からの学習指導要領の目標を取り上げ、その変遷を概観する。

#### 1-1 昭和26年

昭和26年の学習指導要領は実行力のない試案の段階である。書道の目標として以下の四点が挙げられている。

- (1) 国家の文化遺産の一つとしての書道の理解を深める。
- (2) 生徒に書道の技術を習得させて、高度の美を創造することができるようにする。
- (3) 生徒に書道に対する鑑賞能力を得させて、情緒的生活を豊かにさせる。
- (4) 書道をとおして、望ましい生活態度を身につけ、国民道徳を高めることに寄与する。

#### 1-2 昭和35年

昭和35年の学習指導要領からは実行力を伴う教育の目標となった。以下に書道ⅠとⅡの目標を示す。

##### 書道Ⅰの目標

- (1) 書写能力を高め、書の表現力を養い、創作する喜びを得させる。
- (2) すぐれた書に親しませ、書の鑑賞力を養う。
- (3) 書の理論および伝統や動向を理解し、書を愛好するとともに、その発展に努めようとする態度を養う。
- (4) 書の表現、鑑賞および理解を通して、美的感覚を洗練し、芸術文化に対する理解を深め、うるおいのある生活を営む態度や能力を養う。

##### 書道Ⅱの目標

- (1) 書の表現力を高め、創作する喜びを得させる。

---

\*山口大学大学院教育学研究科修士課程美術教育専修

- (2) すぐれた書に親しませ、書の鑑賞力を高める。
- (3) 書の理論および伝統や動向を理解し、書を愛好するとともに、その発展に努めようとする態度を養う。
- (4) 書の表現、鑑賞および理解を通して、美的感覚を洗練し、芸術文化に対する理解を深め、うるおいのある生活を営む態度や能力を養う。

### 1-3 昭和45年

昭和45年には、書道Ⅲまで設置された。以下に学習指導要領の目標を示す。

#### 書道Ⅰの目標

- (1) 書写能力を高め、書の基礎的能力を養い、表現する喜びを得させる。
- (2) すぐれた書に親しませ、書の鑑賞力を養う。
- (3) 書の表現と鑑賞を通して、書についての理解を得させ、書を愛好するとともに、その発展に努める態度を養う。
- (4) 書の学習によって、美的感覚を洗練し、芸術文化に対する理解を深め、情操を豊かにし、書を生活に生かすようにする。

#### 書道Ⅱの目標

- (1) 臨書や創作によって、書の表現力を高め、制作する喜びを得させる。
- (2) すぐれた書に親しませ、書の鑑賞力を高める。
- (3) 書の理論および伝統や動向を理解し、書を愛好するとともに、その発展に努める態度を養う。
- (4) 書の表現、鑑賞および理論の学習を通して、美的感覚を洗練し、芸術文化に対する理解を深め、情操を豊かにし、書を生活に生かす態度や能力を養う。

#### 書道Ⅲの目標

- (1) 臨書や創作によって、個性的、独創的な書の表現力を高め、制作する喜びを得させる。
- (2) すぐれた書に親しませ、書の鑑賞力を高め、審美眼を向上させる。
- (3) 書の理論および伝統や動向について理解を深め、書を愛好するとともに、その発展に努める態度を養う。
- (4) 書の表現、鑑賞および理論の学習を通して、美的感覚を洗練し、芸術文化に対する理解を深め、情操を豊かにし、書を生活に生かす態度や能力を養う。

### 1-4 昭和53年

昭和53年の学習指導要領の目標を以下に示す。

#### 書道Ⅰの目標

書写能力を高め、書の表現と鑑賞の基礎的能力を伸ばし、書を愛好する心情を養う。

#### 書道Ⅱの目標

書の表現と鑑賞の能力を高めるとともに、書の理論や伝統を理解させ、書を愛好する心情を育てる。

#### 書道Ⅲの目標

書の創造的な表現と鑑賞の能力を一層高めるとともに、書の理論や伝統について理解を深める。

### 1-5 平成元年

平成元年の学習指導要領の目標を以下に示す。

#### 書道Ⅰの目標

書道の諸活動を通して、書写能力を高め、表現と鑑賞の基礎的な能力と態度を育てるとともに、書を愛好する心情を養う。

#### 書道Ⅱの目標

書道の諸活動を通して、創造的な表現の能力と鑑賞の能力を伸ばすとともに、書の理論や伝統を理解させ、書を愛好する心情を育てる。

#### 書道Ⅲの目標

書道の諸活動を通して、個性豊かな表現の能力と鑑賞の能力を高めるとともに、書の文化と伝統を尊重する態度を育てる。

## 1-6 平成10年

平成10年の習指導要領の目標を以下に示す。

### 書道Ⅰの目標

幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、書写能力を高め、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばす。

### 書道Ⅱの目標

書道の創造的な諸活動を通して、書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書の文化や伝統についての理解を深め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばす。

### 書道Ⅲの目標

書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情と書の文化や伝統を尊重する態度を育てるとともに、感性を磨き、個性豊かな書の能力を高める。

## 1-7 目標の変遷

昭和26年から平成10年までの芸術科書道学習指導要領の目標を見ると、実用的側面、書の美の側面、そして人間育成の点から示されている。

### 1 実用的

社会生活における書道の必要性、不自由のない書写能力（昭和26年）

書の表現力、創作する喜び（昭和35年、45年）

書の理論及び伝統や動向（昭和45年）

書道の発展に努める態度を養う（昭和45年）

個性的、独創的な書の表現力を高める（昭和45年、平成10年）

### 2 美

美的表現の技術と、これを鑑賞する力（昭和26年）

美的感覚を洗練し、芸術文化に対する理解（昭和35年、45年）

審美眼を向上させる（昭和45年）

### 3 人間性の育成

望ましい生活態度（昭和26年）

潤いのある生活を営む態度や能力（昭和35年）

情操を豊かにし、書を生活に生かす（昭和45年）

書の文化と伝統を尊重する態度を育てる（平成元年）

これらを通してみると、昭和20年代では生活経験を重視し、30年代40年代の高度経済成長期においては、系統的な学習による書道の内容を充実することに目標が置かれている。そして昭和の終わりから平成においては、人間中心の教育課程により、書道と人間性の教育が重視され、同時に我が国の歴史や伝統を学習する分野としても位置づけられている。

## 1-8 書の美の変遷<sup>2)</sup>

学習指導要領の変遷において書の美について着目すると以下のように示されている。（下線は筆者）

年 度		書の美について
昭和26年 (1951年)	芸術科書道学習指導の目標	芸術科書道の学習指導の目標は、 <u>実用と美の両面からわれわれの社会生活における書道の必要性を理解し、日常生活に不自由のない書写能力を身につけ、書の美的表現の技術と、これを鑑賞する力とを養い、書道をと</u> おして望ましい生活態度を身につけるといふことにおかれなければならない。 (一) 国家の文化遺産の一つとしての書道の理解を深める。 <u>書道の用具の発達とともに文字を美しく表現して、東洋では絵画とともに一つの芸術として成立した。</u> (二) 生徒に書道の技術を習得させて、 <u>高度の美を創造することが</u> できるようにする。

		<p>特に毛筆による書は複雑微妙であるから、その美的表現の技術の習得にはじゅうぶん意を用いなければならない。しかも、その技術を単なる技術に終らせず、<u>高い深い美が創造されるようにしなければならない。</u></p> <p>技術の修練によって、じゅうぶんに自己を表現できるようにし、<u>書道による高度の美を創造して、周囲の生活を明るくし、技術を生かすこと</u>によって、<u>個人の完成を目ざさなければならない。</u></p>
	<p>芸能科書道学習指導の具体的な目標</p>	<p>(一)わが国の文化遺産の一つとしての書道の理解を深める。 5書の芸術性を理解する。 (二)書道の技術を習得し、<u>高度の美を創造する。</u> (三)情緒的生活を豊かにする一つ的手段として、書道に対する鑑賞能力を高める。 2形の構成の美や運筆による線の変化を味わう。 3全体から受ける気分、素材や制作意図、脈絡の貫通や余白の美しさ、墨色、表装と作品の調和などによって、作品を鑑賞する。 4作品に表われた筆者の個性や風格などをうかがう。 5作品に没入し、<u>美を享受する喜び</u>を味わう。 (四)書道の学習をとおして、望ましい生活態度を身につけ、国民道徳を高めることに寄与する。 4書を飾ることをとおして、<u>広く環境を美しくする習慣を養う。</u></p>
	<p>芸能科書道の鑑賞の学習指導</p>	<p>(一)芸能科書道の鑑賞の学習指導はどんな意義をもつか。 <u>美的情操を豊かにすることは、人間教育にとって、きわめてたいせつなことである。</u>書道における鑑賞の学習は、この大きな役割を果たすものである。従来の書道教育においては、とかくこの面が軽視されがちであった。よい書を多く深く見ることによって、鑑賞力を高め、自分の生活を豊かにし、日常生活における書を批判することによって、<u>環境の美化に役だたせるところに鑑賞学習の意義が認められる。</u> (三)生徒の書道における鑑賞の学習には、どんな段階が考えられるか。 初 等 5漢字やかなの構成の美しさがわかる。 6墨色の美しさがわかる。 中 等 3運筆の美しさが鑑賞できる。 高 等 2作品全体に現れている気韻が味わえる。</p>
昭和31年 (1956年)	<p>芸術科書道の目標</p>	<p>芸術科の目標に到達するために芸術科書道は中学校の学習の基礎の上に立って、次に示す各項を通して生徒の能力や態度の養成に努める。 1書の美的表現力を養い、個性の伸長を図る。 4書の表現・鑑賞を通して、<u>美的感覚を洗練する。</u></p>
	<p>第1年次の指導目標</p>	<p>ア直観的、総合的鑑賞 (ア)直観的、印象的に作品を味わう。 細かく分析せず、第一印象で気品、素朴さ、洗練、新味、統一、変化その他を味わう。 イ分析的鑑賞 (ア)形態美を味わう。 (イ)線美を味わう。 (ウ)墨色美を味わう。</p>
	<p>第2年次の指導目標</p>	<p>)鑑賞 ア直観的、総合的鑑賞 (イ)点画・一字・全体・墨色などを分析的に鑑賞し、その作品の<u>個性的な美</u>を味わう。 イ分析的鑑賞 (ア)形態美の鑑賞 (イ)線美の鑑賞 (ウ)墨色美の鑑賞</p>
	<p>第3年次の指導目標</p>	<p>イ分析的鑑賞 (ア)形態美の鑑賞 (イ)線美の鑑賞 (ウ)墨色美の鑑賞</p>

昭和 35 年 (1960 年)	書道 I	<p>1 目標 (4)書の表現、鑑賞および理解を通して、<u>美的感覚</u>を洗練し、芸術文化に対する理解を深め、うるおいのある生活を営む態度や能力を養う。</p> <p>2 内容 B 鑑賞 (1) <u>書の美</u>について、次の着眼点などから、味わうようにする。 ア 書の性情を、直観的に、気品、明暗、強弱などの着眼点から味わう。 イ <u>全体の構成美</u>を、調和、変化と統一、律動などの着眼点から味わう。 ウ <u>文字の形体美</u>を、均斉、均衡、律動などの着眼点から味わう。 エ <u>線美</u>を、強さ、深さ、曲直、細太、律動などの着眼点から味わう。 オ <u>墨色美</u>を、濃淡、潤濁などの着眼点から味わう。 カ <u>書の美</u>を、制作の意図、作者の個性、時代的社会的背景などの着点から味わう。 (2) <u>書の美</u>について、上記(1)の着眼点などから、総合的に味わうようにする。</p>
	書道 II	同上
昭和 45 年 (1970 年)	書道 I	<p>目標 (4)書の学習によって、美的感覚を洗練し、芸術文化に対する理解を深め、情操を豊かにし、書を生活に生かすようにする。 B 鑑賞 (1) <u>書の美</u>を、表現効果の観点から、直観的に味わうようにする。 (2) <u>書の美</u>を、造形要素の観点から、分析的に味わうようにする。 (3) <u>書の美</u>を、制作の意図、作者の個性、時代的社会的背景などの観点から味わうようにする。 (4) 漢字、かな、漢字かな交じりの書の美について、上記(1)、(2)および(3)の観点などから、総合的に味わうようにする。</p>
	書道 II	<p>目標 (4)書の表現、鑑賞および理論の学習を通して、美的感覚を洗練し、芸術文化に対する理解を深め、情操を豊かにし、書を生活に生かす態度や能力を養う。 B 鑑賞 (1) <u>書の美</u>を、表現効果の観点から、直観的に深く味わうようにする。 (2) <u>書の美</u>を、造形要素の観点から、分析的に深く味わうようにする。 (3) <u>書の美</u>を、制作の意図、作者の個性、時代的社会的背景、民族性、風土性などの観点から味わうようにする。 (4) 漢字、かな、漢字かな交じりの書の美について、上記(1)、(2)および(3)の観点などから、総合的、批判的に味わうようにする。</p>
	書道 III	同上
昭和 53 年 (1978 年)	書道 I	<p>ア <u>書の美への関心</u> イ <u>書の美を構成する基本的要素の把握</u></p>
	書道 II	<p>ア <u>書の美の直観的把握</u> イ <u>書の美を構成する諸要素の把握</u></p>
	書道 III	ア <u>書の美の多様性と作品の特徴</u>
平成元年 (1989 年)	目標	芸術的な能力を伸ばし、美に対する感性を高めるとともに、生涯にわたって芸術を愛好する心情を育て、豊かな情操を養う。
	書道 I	<p>ア <u>書の美の直観的把握</u> イ <u>書の美を構成する基本的要素の把握</u></p>
	書道 II	<p>ア <u>書の美の直観的把握、諸要素の分析的把握</u> イ <u>書の美と時代、風土、筆者の個性などとの関連</u></p>
	書道 III	ア <u>書の美の多様性と作品の特徴</u>
平成 10 年 (1998 年)	書道 I	イ <u>書の美しさと表現効果</u>
	書道 II	<p>ア <u>書の美の諸要素の把握と表現効果</u> イ <u>書の美と時代、風土、筆者の個性などとの関連</u></p>
	書道 III	ア <u>書の美の多様性と作品の特徴</u>
平成 21 年 (2009 年)	書道 I	<p>目標 書写は正しく整えて書くことが美の一つの基本的な在り方であるのに対して、書道はそれを基盤にしながらも更に芸術としての多彩な美へと発展していくものである。</p>

		鑑賞 イ 見ることを楽しみ、書的美しさと表現効果を味わい、感じ取ること。
	書道Ⅱ	目標 書の歴史や文化への理解を踏まえて、書的美を分析的・総合的に鑑賞することが不可欠である。 表現 生徒が様々な書的美を体験できるように配慮する必要がある。 鑑賞 ア 書的美の諸要素を把握し、その表現効果について理解し、感受を深めること。 イ 書的美と時代、風土、筆者などのかかわり、その表現方法や形式等について理解を深めること。
	書道Ⅲ	鑑賞 ア 書的美の多様性を理解し、作品の様式美を鑑賞すること。

以上のように学習指導要領における書的美について見ると、美についての変遷に変化はなく、その美をどのように受け止め指導するか観点に変化が見られる。系統的な学習の時期には文字の形や構成といった造形的内容が重視される。その後の人間中心の教育課程では書的美に関わる人間性や歴史、社会といった周辺的な分野にまで関連して、その美を多様な分野から理解することが促されている。

## 2. 現行（平成21年）の書道の学習指導要領<sup>3)</sup>

平成21年の学習指導要領では、表現の分野に漢字と仮名が集約されて総合的に学習するように促されている。以下が目標と内容である。

### 2-1 書道Ⅰ

#### ○目標

書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

#### ○内容

##### A 表現

##### (1) 漢字仮名交じりの書

- ア 用具・用材の特徴を理解し、適切に扱うこと。
- イ 漢字と仮名の調和した線質の表し方を習得すること。
- ウ 字形、文字の大きさと全体の構成を工夫すること。
- エ 名筆を生かした表現を理解し、工夫すること。
- オ 目的や用途に即した形式、意図に基づく表現を工夫すること。

##### (2) 漢字の書

- ア 用具・用材の特徴を理解し、適切に扱うこと。
- イ 古典に基づく基本的な点画や線質の表し方を理解し、その用筆・運筆の技法を習得すること。
- ウ 字形の構成を理解し、全体の構成を工夫すること。
- エ 意図に基づく表現を構想し、工夫すること。

##### (3) 仮名の書

- ア 用具・用材の特徴を理解し、適切に扱うこと。
- イ 古典に基づく基本的な線質の表し方を理解し、その用筆・運筆の技法を習得すること。
- ウ 単体、連綿の技法を習得し、全体の構成を工夫すること。
- エ 意図に基づく表現を構想し、工夫すること。

##### B 鑑賞

- ア 日常生活における書への関心を高め、その効用を理解すること。
- イ 見ることを楽しみ、書的美しさと表現効果を味わい、感じ取ること。

- ウ 日本および中国などの文字と書の伝統と文化について理解すること。
- エ 漢字の書体の変遷、仮名の成立などを理解すること。

## 2-2 書道Ⅱ

### ○目標

書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書の愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、書の伝統と文化について理解を深める。

### ○内容

#### A 表現

##### (1) 漢字仮名交じりの書

- ア 意図に即した表現と用具・用材の関係を工夫すること。
- イ 名筆の鑑賞に基づき表現を工夫し、個性的に表現すること。
- ウ 表現形式に応じて、全体の構成を工夫すること。
- エ 感興や意図に応じた素材や表現を構想し、工夫すること。

##### (2) 漢字の書

- ア 書体や書風に即した用筆・運筆を理解し、工夫すること。
- イ 古典に基づく表現を工夫し、個性的に表現すること。
- ウ 表現形式に応じて、全体の構成を工夫すること。
- エ 感興や意図に応じた素材や表現を構想し、工夫すること。

##### (3) 仮名の書

- ア 書風に即した用筆・運筆を理解し、工夫すること。
- イ 古典に基づく表現を工夫し、個性的に表現すること
- ウ 表現形式に応じて、全体の構成を工夫すること。
- エ 感興や意図に応じた素材や表現を構想し、工夫すること。

#### B 鑑賞

- ア 書の美の諸要素を把握し、その表現効果について理解し、感受を深めること。
- イ 書の美と時代、風土、筆者などとの関わり、その表現方法や形式などについて理解を深めること。
- ウ 日本および中国などの書の歴史・文化と書の現代的意義について理解を深めること。

## 2-3 書道Ⅲ

### ○目標

書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書の愛好する心情と書の伝統と文化を尊重する態度を育てるとともに、感性を磨き、個性豊かな書の能力を高める。

### ○内容

#### A 表現

##### (1) 漢字仮名交じりの書

- ア 書の伝統を理解し、現代社会に即した効果的な表現を工夫すること。
- イ 主体的な構想に基づく個性的、創造的な表現を追求すること。

##### (2) 漢字の書

- ア 書の伝統を理解し、書の特徴を生かして表現すること。
- イ 主体的な構想に基づく個性的、創造的な表現を追求すること。

##### (3) 仮名の書

- ア 書の伝統を理解し、古典の特徴を生かして表現すること。
- イ 主体的な構想に基づく個性的、創造的な表現を追求すること。

#### B 鑑賞

- ア 書の美の多様性を理解し、作品の様式美を鑑賞すること。
- イ 書論を講読し、書の理解と鑑賞の深化を図ること。
- ウ 日本および中国などの書の伝統とその背景となる諸文化との関連について理解を深めること。

学習内容が表現と鑑賞に大別され、書道Ⅰにおいて総合的に学習するように設定されているのは、高等学校芸術の音楽、美術、工芸においても同様である。現実的に高等学校での芸術教科の履修はⅠをほとんどの生徒が履修し、Ⅱ、Ⅲの履修者は少ない。そこで社会人としての教養を身につけるためにはⅠにおいて総合的に学習する必要がある。そして、それは歴史や社会などの人文的内容とも関連させて学習することを促している。

### 3. 教科書の構成<sup>4)</sup>

前述のような学習指導要領にもとづいて、書道の教科書教材は具体的に以下のように構成されている。ここで取り上げる教科書は平成10年の学習指導要領に基づくものであり、現行の学習指導要領での教科書はⅠのみ刊行されている。全体を概観するためにⅠは平成23年検定、Ⅱは平成19年、Ⅲは平成20年検定の教科書で述べる。

書名	内容
書Ⅰ 平成23年 検定済	一、漢字の書に親しもう 1、漢字の書体の変遷を知ろう 2、楷書、行書、草書、隸書篆書を学ぼう 3、鑑賞しよう 4、創作しよう 二、仮名の書に親しもう 1、仮名を知ろう 2、仮名の基本を学ぼう 3、古筆からを学ぼう 4、構成の美を学ぼう 5、鑑賞しよう 6、創作しよう 三、漢字仮名交じりの書に親しもう 1、漢字仮名交じりの書を知ろう 2、漢字仮名交じりの書を学ぼう 3、鑑賞しよう 4、創作しよう 四、暮らしのなかの書
書Ⅱ 平成19年 検定済	一、書の美に親しもう 1、書道Ⅰから書道Ⅱへ 2、書の表現と鑑賞 二、漢字の書の美に親しもう 1、篆書、隸書、草書、行書、楷書の古典を学ぼう 2、創作を楽しもう 三、仮名の書の美に親しもう 1、仮名の書の表現 2、仮名の古典を学ぼう 3、散らし書きを学ぼう 4、創作を楽しもう 四、漢字仮名交じりの書の美に親しもう 1、漢字仮名交じりの書の表現 2、古典を創作に生かそう 3、表現を広げよう 4、創作を楽しもう 一、書の世界を広げよう 二、書の歴史と文化
書Ⅲ 平成20年 検定済	一、書の美の多様性に親しもう 1、書道Ⅱから書道Ⅲへ 2、書道Ⅲの学習内容 二、漢字の書の美の多様性に親しもう 1、篆書、隸書、草書、行書、楷書の古典を学ぼう 2、古典を生かして創作しよう



	三、仮名の書の美の多様性に親しもう 1、仮名の古典を学ぼう 2、古典を生かして創作しよう 四、漢字仮名交じりの書の美の多様性に親しもう 1、漢字仮名交じりの書表現 2、古典を生かして創作しよう 3、表現を広げよう
--	--

書道の歴史と文化について中国と日本の関連が多く取り上げられている。書道Ⅰ、Ⅱ、Ⅲはいずれも最後に中国・日本書道略年表がある。書の美を鑑賞する際には、書かれた時代や背景を知ることが大切であり、年表を参考にして、中国と日本における書の歴史と文化について考えてみるように構成されている。また、書の教材は、漢字、仮名、漢字と仮名によって分けられており、分量からすると漢字の量が多い。現行の学習指導要領による書道Ⅰでは書の世界を広く捉え、日常生活に関連する文字を含み、篆刻、刻字、刻字看板など幅広く教材を取り上げ、書を身近な存在として捉えている。

#### 4. 漢字の美

書の学習において漢字は多くを占めている。教科書に取り上げられている漢字は、元来、中国の文化である。ここでは、中国で伝統的で価値の定まっている書の例が採用されている。教科書では基本である行書と楷書を中心に紹介されている。漢字の美しさが十分に味わえ、書の形だけでなく、社会や歴史などの背景となるものも取り入れ、中国の文化を理解することができる。

漢字の書の方は中国の古典的碑文の書を写しとった拓本が多い。篆書、隸書、草書、行書、楷書（五大書体）は教科書の中で全部あり、具体的な例もある。

#### 付記

本稿の作成にあたり、全体構想を福田が担当し、各章を趙と福田が執筆した。また、執筆に際して、郭玲玲（中国山東農業大学講師・山口大学大学院東アジア研究科学生）に協力を得た。

#### 注

- 1) <http://www.nier.go.jp/guideline/>
- 2) <http://www.nier.go.jp/guideline/>
- 3) 文部科学省、『高等学校学習指導要領解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編』、教育出版、平成21年
- 4) 井茂 圭洞ほか、『書Ⅰ』、光村図書、平成24年発行、『書Ⅱ』『書Ⅲ』、平成25年発行  
高木 聖雨ほか、『書Ⅰ』、光村図書、平成25年発行